

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
金盃	2019/2/6	SII	大井	2600m	ミドルベース	重	長距離適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ワークアンドラブ	牡4	54	森	シニスターミニスター	ナスルーラ系	Medaglia d'Oro	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	○	
	2	クラージュドール	牡9	57	赤岡	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	A	A	C	B	C		
2	3	カンムル	牡5	56	左海	サマーバード	ミスプロ系	Star de na Naskra	ナスルーラ系	D	B	C	C	C	C		
	4	ウマノジョー	牡6	56	山本聡	ウイングアロー	ノーザン系	エンドスウィープ	ミスプロ系	C	B	B	C	C	C		
3	5	スギノグローアップ	牡6	54	真島	マンハッタンカフェ	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	A	B	B	C	C		
	6	ミヤジマッキー	牡9	56	国分	スパイクユール	サンデー系	マルゼンスキー	ノーザン系	D	D	D	D	D	D		
4	7	サウンドトゥルー	セ9	56	御神本	フレンチデビュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	A	A	B	A	A	B	◎	
	8	レッドソロモン	牡7	56	矢野	メイショウサムソン	ノーザン系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	A	C	B	C	C		
5	9	モズライジン	牡7	56	瀧川	クロフネ	ノーザン系	ウォーニング	ミスプロ系	D	C	B	D	C	C		
	10	シュテルングランツ	牡8	57	的場文	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	B	B	B	C	B	B	△1	
6	11	ガヤルド	牡8	52	岡村	ステイゴールド	サンデー系	プレミアムサンダー	アリダー系	C	C	B	B	C	B	△3	
	12	ベイシャゴンジセ	牡8	54	本田	ストーミングホーム	ミスプロ系	ラストタイクーン	ノーザン系	D	B	B	C	C	C		
7	13	エンバイアベガサス	牡6	56	岡部	エンバイアメーカー	ミスプロ系	Distorted Homor	ミスプロ系	B	B	B	B	C	B	△2	
	14	ヤマノファイト	牡4	56	本橋	エスポワールシチー	サンデー系	フォーティナイナー	ミスプロ系	B	B	B	B	C	B	▲	
8	15	ユーロビート	セ10	56	吉原	スズカマンボ	サンデー系	エリシオ	ノーザン系	C	B	B	C	C	C		
	16	キスミープリンス	牡11	56	張田	ノーリーズン	ロベルト系	フジキセキ	サンデー系	D	C	D	D	D	D		

隊列図	見解	ラップタイム
シユテ ワーク ガヤル レッド サウン カンム エンパ スギノ ヤマノ クラ ユーロ ウマノ ペイシ モズラ キスミ ミヤジ	<p>1年に一度だけ行われる大井2600mの特殊条件。今年は世代レベルの高い4歳馬2頭（ワークアンドラブ、ヤマノファイト）に加え、JRAから転入したばかりのサウンドトゥルーが参戦し、非常にレベルの高い一戦になりそうだ。ポイントは立ち回り力だろう。大井2600mは向上面の中ほどからスタートし、そこからコーナーを6回もまわるコース。JRAでもそうだが、コーナーが多ければ多いほど立ち回り力が求められる。過去5年の金盃の結果を見ても、内枠勢が総じて強く、1枠に入った馬は4年で3着以内に好走中。15年には3番→1番→2番ゲートで決着した。直近の大井開催を振り返っても、内枠有利の傾向が続いており、前開催のTCK女玉盃では、2番ゲートに入った格下のマルカンセンサーが2着に好走するほど（マルカンセンサーは次走B1のレースであっさりと7着に敗退）。今開催は前開催ほど強烈な内伸びではないが、それでも内がやや有利。舞台設定、現在の大井の馬場状態を考えても、内枠からロスなく立ち回れる馬が圧倒的に有利になるだろう。それでは予想にいきましょう。ここはまずワイド1点で当てたい。</p> <p>本命はサウンドトゥルーが勝ち負け濃厚だろう。差し馬ながら器用な面があり、毎回確実に追い込んでくる馬。（以下省略）</p>	

ミドルベース

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ワークアンドラブ	○	前走ウェルカム2019賞が大楽勝。2走前の東京大賞典では直線で進路を切り返すロスがありながら勝ち馬オメガパフェームから1.2秒差。能力はダートグレード級と見ていだろう。		
	2	クラージュドール		金盃は3年連続の出走で、過去2回が17年3着、18年1着。コース適性は文句なしも、直近の2走があまりにも冴えない。調教ではヤマノファイトにあっさり遅れを取った。走る気持ちが切れてしまったのでは。		
2	3	カンムル		3歳時は戸塚記念→埼玉新聞栄冠賞と重賞で連勝する活躍を見せたが、2018年シーズンは【0.0.0.5】。オープン特別でも結果を残せておらず、早熟だったと判断していいだろう。		
	4	ウマノジョー		金盃は2年連続で2着と好走中。長距離実績は豊富だが、直近2戦が東京記念10着、金盃トライアル8着と見せ場なく敗退。年齢的にガラリー変を望むのは酷では。		
3	5	スギノグローアップ		大崩れなく走っているのは魅力だが、夏の東京記念では勝ち馬シュテルングランツから1.2秒差の4着と敗退。今回は当時よりも強力なメンバー。馬券圏内までは難しいのでは。		
	6	ミヤジマッキー		適性距離はマイル前後。2600mは明らかに長い。追走で一杯だろう。		
4	7	サウンドトゥルー	◎	毎回確実に追い込んでくる馬。4枠7番なら許容範囲で、最初のコーナーまでに内目のポジションを確保できるだろう。惜敗が続いているが、ほぼG1のみに出走しており、勝ち切れていないのは仕方ない面がある。今回は南関東馬同士で斤量56キロ。さすがに力の違いを見せつけるのではないかな。		
	8	レッドソロモン		転入初戦の大師オープンでは3着と好走したが、森騎手がラチびったりを通る好騎乗がもたらした結果でもあった。叩き2走目で前進が見込めるとはいえ、よほどの上積みがない限り、上位争いは難しいだろう。		
5	9	モズライジン		前走金盃トライアルでは勝ち馬ガヤルドから3.0秒差の11着。ダート長距離に適性があるとはいえ、前走の大敗ぶりを見るとさすがに買えない。		
	10	シュテルングランツ	△1	JBCクラシック、浦和記念と逃げられずノーカウント。今回はメンバー的にハナに立てそう。昨年の東京記念ではカツゲキキトキト、ユーロビートらに完勝。サウンドトゥルーと4歳勢2頭を除けば、能力上位の存在だろう。		
6	11	ガヤルド	△3	前走金盃トライアルが着差以上に強い競馬。レースセンスが非常に高く、大井の長距離戦に適性があったのだろう。引き続き同舞台で斤量52キロなら上位に食い込んでみても驚けない。		
	12	ペイシャゴンジセ		昨年の東京記念では勝ち馬シュテルングランツから1.3秒差の5着と敗退。今回は当時よりも強力なメンバー。上位争いは難しいだろう。		
7	13	エンパイアベガサス	△2	ダート長距離戦のオグリキャップ記念、北上川大賞典で大差勝ち。相手が弱かったといえどもまだまだ、ダート長距離戦への適性は高い。昨年の金盃は4着に敗れたが、自分の競馬に持ち込めなかった。とにかくバテないしぶとさがあるので、早め早めの進出ができれば、前年以上の着順があってもいい。		
	14	ヤマノファイト	▲	前走報知オールスターカップではタービランスを下しての勝利。浦和や川崎でも結果を残しているが、本来は伸び伸びと走れる大井コースがベストだろう。不安は出遅れ癖と枠順。本馬の近走のダッシュカと7枠14番の枠順を考えると、ロスの多い競馬になるかもしれない。		
8	15	ユーロビート		すでに10歳だが、年明け初戦の報知オールスターカップでは3着に好走。長距離戦では安定した走りを見せているが、今回は相手がやや冴っばい。掲示板までが精いっぱいなのでは。		
	16	キスミープリンス		金盃は3年連続の出走で、17年10着、18年12着と大敗。今年も苦戦必至だろう。		